

受 験 番 号

◎ 指示があるまで開かないこと。

令和7年2月13日 午後用

第76回獣医師国家試験 実地試験問題 (D)

注 意 事 項

1. 問題数は60問であり、解答時間は2時間である。
2. 解答方法は次のとおりである。

〔1〕 各問題には5つの選択肢があるので、そのうち質問に適した答えを1つだけ選び、次の例にならって答案用紙にマークすること。なお、1問につき2つ以上マークした場合には、そのうちの1つが正答であっても誤りとして取り扱われる。

(例) 問61 我が国で獣医師国家試験事務を受けもっている省はどれか。

- | | | |
|----------|----------|----------|
| 1. 厚生労働省 | 2. 文部科学省 | 3. 農林水産省 |
| 4. 外務省 | 5. 国土交通省 | |

正答は「3」であるから、答案用紙の

61 E 1 ☐ E 2 ☐ E 3 ☒ E 4 ☐ E 5 ☐のうちE 3 ☐を横線で、
61 E 1 ☐ E 2 ☐ ~~E 3 ☐~~ E 4 ☐ E 5 ☐とマークすれば良い。

〔2〕 答案用紙のマークには、必ずHBの鉛筆を使用し、次の良い例のとおり、塗りつぶさずに線を引くこと。

良い例…… 悪い例……   

〔3〕 答えを修正する場合は、必ずプラスチック製の消しゴムで完全に消し、消し跡や消しクズが残らないようにすること。消し方が悪いと採点されないの
で注意すること。

〔4〕 答案用紙は、折り曲げたり、メモやチェックなどで汚したりしないよう特に注意すること。

課題 1 次の文を読み、問 1、問 2 に答えよ。

犬、ペキニーズ、雄、8 歳齢。左右対称性の貧毛がみられた。〔図 1 - A〕は貧毛部の皮膚、〔図 1 - B〕は同部位の病理組織像（HE 染色）である。

別冊 D 図 1 - A, B

問 1 適切な組織所見はどれか。

1. 痂皮の形成
2. 表皮の錯角化
3. 膿疱の形成
4. 真皮の石灰沈着
5. 立毛筋の肥大

問 2 本疾患の発生に最も関連するのはどれか。

1. グルココルチコイド
2. 甲状腺ホルモン
3. インスリン
4. アルドステロン
5. カテコールアミン

課題 2 次の文を読み、問 3、問 4 に答えよ。

犬、ヨークシャー・テリア、雄、5 か月齢。同居犬と遊んでいるときにキャンと鳴いてから右前肢を挙上しているとの主訴で来院。〔図 2〕は右前肢の単純 X 線像（A：側方像、B：頭尾像）である。

別冊 D
図 2 - A, B

問 3 X 線所見として最も適当なのはどれか。

- a 上腕骨内側上顆骨折
- b 上腕骨外側上顆骨折
- c 成長板骨折
- d モンテジア骨折
- e 尺骨近位骨折

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

問 4 本症例の治療として最も適当なのはどれか。

- 1. エーマー吊り包帯
- 2. ホブル（足かせ）包帯
- 3. 骨片除去手術
- 4. ラグスクリューとピンによる固定
- 5. 骨プレートによる固定

課題 3 次の文を読み、問 5、問 6 に答えよ。

犬、キャバリア・キング・チャールズ・スパニエル、避妊雌、9 歳齢。頸部をしきりに搔くとの主訴で来院。〔図 3〕は頸部 MRI 矢状断像（A：T1 強調像、B：T2 強調像）である。

別冊 D
図 3 - A, B

問 5 最も疑われる疾患はどれか。

- a 椎間板ヘルニア
- b 環椎軸椎不安定症
- c 脊髄腫瘍
- d 脊髄空洞症
- e 後頭骨形成不全

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

問 6 本症例の治療として最も適切なのはどれか。

- a 環椎軸椎の腹側固定術
- b 放射線治療
- c 大後頭孔減圧術
- d グルココルチコイドの投与
- e 腹側減圧術

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

課題 4 次の文を読み、問 7、問 8 に答えよ。

犬、シー・ズー、去勢雄、1 歳齢。歯茎が腫れているとの主訴で来院。〔図 4 - A〕は病変部の外貌、〔図 4 - B〕は病変部の穿刺により採取された液体、〔図 4 - C〕は採取された液体の沈査塗抹標本（ライトギムザ染色、× 400）、〔図 4 - D〕は病変部の単純 X 線像である。

別冊 D 図 4 - A, B, C, D

問 7 最も疑われる疾患はどれか。

1. 血管肉腫
2. 下顎骨折
3. 唾液腺癌
4. 歯源性嚢胞
5. 棘細胞性エナメル上皮腫

問 8 本症例の治療として最も適切なのはどれか。

1. 貯留液の抜去
2. 嚢胞上皮の完全切除
3. サークラージワイヤーによる固定
4. 放射線治療
5. 歯石除去

課題 5 次の文を読み、問 9、問 10 に答えよ。

〔図 5〕は、頭胴長 1 m 以下、成体体重 12 kg（雌）～14 kg（雄）程度の動物である。
現在、我が国では千葉県房総半島と東京都伊豆大島を中心に生息している。

別冊 D

図 5

問 9 我が国で対策を行うため、この動物を指定対象としているのはどれか。

1. 「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（外来生物法）」の特定外来生物
2. 「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（感染症法）」の指定動物
3. 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）」の国内希少野生動物種
4. 「動物の愛護及び管理に関する法律（動物愛護管理法）」の特定動物
5. 「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律（鳥獣保護管理法）」の指定管理鳥獣

問10 この動物に関して法律で規定されているのはどれか。

1. 輸入時の検疫の係留期間は最長 180 日である。
2. 飼養時にマイクロチップを装着しなくてはならない。
3. 地域特性に合わせて都道府県が当該動物の管理計画を策定できる。
4. 保護増殖事業計画の策定によって絶滅回避や保全対策を図る。
5. 一度捕獲した個体を野外に放してはならない。

課題 6 次の文を読み、問 11、問 12 に答えよ。

馬、サラブレッド種、雌、2 歳齢。レース中盤で急激に失速し、聴診で不整脈を確認した。〔図 6〕はレース翌日の安静時の心電図（AB 誘導）である。

別冊 D

図 6

問11 この不整脈はどれか。

1. 心房細動
2. 心室細動
3. 心室頻拍
4. 房室ブロック
5. 洞房ブロック

問12 この不整脈の治療薬はどれか。

- a アトロピン
- b ドブタミン
- c ニトログリセリン
- d フレカイニド
- e キニジン

1. a, b
2. a, e
3. b, c
4. c, d
5. d, e

課題 7 次の文を読み、問 13、問 14 に答えよ。

〔表 7 - A〕は過去に我が国で発生した感染症に罹患した豚の臨床徴候である。
〔図 7 - B〕は病原体の粒子構造、〔図 7 - C〕は本疾患のアジアにおける発生地域を示す。

別冊 D 図表 7 - A, B, C

問13 最も疑われる疾患はどれか。

1. 豚水疱疹
2. 豚水疱病
3. 口蹄疫
4. 水疱性口内炎
5. 豚痘

問14 本疾患に関する記述として適切なのはどれか。

1. DNA ウイルスの感染による。
2. 豚と牛以外の偶蹄類動物には感染しない。
3. 病原体は単一血清型である。
4. 感染した豚は牛よりも大量のウイルスを排出する。
5. 我が国の豚にはワクチンが定期接種されている。

課題 8 次の文を読み、問 15、問 16 に答えよ。

牛、黒毛和種、去勢雄、9 か月齢。同居牛とフリーバーンで飼養中、下腹部が腫れているとのことで診察依頼があった。〔図 8 - A〕は本症例の外貌、〔図 8 - B〕は仰臥位にした際の下腹部の外貌、〔図 8 - C〕は腫脹部位の超音波検査像である。

別冊 D 図 8 - A, B, C

問15 最も疑われる疾患はどれか。

1. 膀胱炎
2. 精巣炎
3. 陰囊炎
4. 陰囊血腫
5. 陰茎血腫

問16 本疾患に関する記述として適当なのはどれか。

1. 陰囊内に血液または血様滲出物が貯留する。
2. 細菌やウイルスの感染により発症する。
3. 外傷による陰茎海綿体の裂傷で生じる。
4. 治癒しても再発することが多い。
5. 精巣や精巣上体と癒着することがある。

課題 9 次の文を読み、問 17、問 18 に答えよ。

〔図 9〕は「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（感染症法）」で三類感染症に指定されている、ある経口感染症の我が国における年間届出患者数の推移である。

別冊 D

図 9

問17 この感染症はどれか。

1. 腸チフス
2. A 型肝炎
3. コレラ
4. E 型肝炎
5. 腸管出血性大腸菌感染症

問18 この感染症に関する記述として適切なのはどれか。

1. 現在も第 7 次世界大流行が続いている。
2. 不活化ワクチンが使用されている。
3. 近年は輸入症例がほとんどである。
4. 豚肉がヒトの感染源として重要である。
5. 重症化すると腎臓や脳に障害を起こす。

課題10 次の文を読み、問 19、問 20 に答えよ。

馬、サラブレッド種、雌、4 歳齢。遠方から輸送され、2 日後より左前肢の跛行を認めた。患肢をやや前方に踏み出した姿勢をとり、蹄を触診すると熱感を認めた。〔図 10〕は患肢の外内側方向の単純 X 線像である。

別冊 D

図 10

問19 最も疑われる疾患はどれか。

1. 蹄骨骨折
2. 蹄葉炎
3. 裂蹄
4. 角壁腫
5. 蹄叉腐爛

問20 本疾患の治療として適切なのはどれか。

- a 蹄底に充填材を詰める。
- b 非ステロイド系抗炎症薬を投与する。
- c 疼痛が重度の場合は抗菌薬の全身投与を行う。
- d 蹄を外固定する。
- e 積極的に歩行させる。

1. a, b
2. a, e
3. b, c
4. c, d
5. d, e

課題11 次の文を読み、問 21、問 22 に答えよ。

〔図 11〕は畜舎で発生するアンモニアを生物脱臭法によって無臭化する反応過程を示している。

別冊 D

図 11

問21 〔ア〕と〔イ〕の反応名の組合せはどれか。

- | | ア | イ |
|----|------|------|
| 1. | 硝化 | 窒素固定 |
| 2. | 硝化 | 脱窒 |
| 3. | 脱窒 | 窒素同化 |
| 4. | 窒素同化 | 窒素固定 |
| 5. | 窒素同化 | 脱窒 |

問22 これらの反応または反応過程で生じる化学物質に関する記述として誤っているのはどれか。

1. 〔ア〕では產生される亜硝酸がさらに酸化されて硝酸になる。
2. 硝酸と亜硝酸は土壌の帯水層まで浸透して地下水を汚染しやすい。
3. 〔イ〕の反応は好気条件下で進行する。
4. 窒素は気体の状態で大気中に放出される。
5. 亜酸化窒素（一酸化二窒素）は温室効果ガスである。

課題12 次の文を読み、問 23、問 24 に答えよ。

犬、シー・ズー、避妊雌、1 歳齢。1 週間程前から頻繁にトイレに行くとの主訴で来院。〔図 12〕は尿沈渣の鏡検像（×400）である。

別冊 D

図 12

問23 この結晶の成分はどれか。

1. ストルバイト
2. シュウ酸カルシウム
3. 尿酸塩
4. シスチン
5. シリカ

問24 この結晶の原因疾患・病態として最も適当なのはどれか。

1. 細菌性膀胱炎
2. 糸球体腎炎
3. 胆嚢粘液嚢腫
4. 門脈体循環シャント
5. 高カルシウム血症

課題13 次の文を読み、問 25、問 26 に答えよ。

猫、雑種、去勢雄、9 歳齢。2 日前より突然食欲元気がなくなり左前肢を引きずるとの主訴で来院。体温 34.9℃、心拍数 140 回/min、呼吸数 120 回/min、〔図 13 - A〕は症例の前肢の外貌、〔図 13 - B〕は心臓超音波検査像（長軸像）である。

別冊 D
図 13 - A, B

問25 最も疑われる疾患と合併症の組合せとして適当なのはどれか。

- | 疾患 | 合併症 |
|------------|----------|
| 1. 心筋症 | 脊髄梗塞 |
| 2. 心筋症 | 大動脈血栓塞栓症 |
| 3. 犬糸状虫症 | 大動脈血栓塞栓症 |
| 4. 感染性心内膜炎 | 細菌性関節炎 |
| 5. 感染性心内膜炎 | 脊髄梗塞 |

問26 問 25 の合併症に続発して生じうる異常として最も適当なのはどれか。

1. 高カリウム血症
2. 低カリウム血症
3. 高ナトリウム血症
4. 低ナトリウム血症
5. 高カルシウム血症

課題14 次の文を読み、問 27、問 28 に答えよ。

舎飼いの子牛（ホルスタイン種）の新鮮便を浮遊法で検査したところ、〔図 14 - A〕の虫卵が検出された。〔図 14 - B〕は同糞便を糞便（虫卵）培養して得られた第 3 期幼虫である。

別冊 D
図 14 - A, B

問27 この線虫はどれか。

1. 乳頭糞線虫 (*Strongyloides papillosus*)
2. 牛捻転胃虫 (*Mecistocirrus digitatus*)
3. 牛腸結節虫 (*Oesophagostomum radiatum*)
4. 牛鞭虫 (*Trichuris discolor*)
5. 牛肺虫 (*Dictyocaulus viviparus*)

問28 この寄生虫・疾患に関する記述として正しいのはどれか。

- a 雄成虫の尾端には交接囊がみられる。
- b 成虫は大腸に寄生する。
- c ヒトに寄生して成虫になることがある。
- d 経乳感染する。
- e 子牛が突然死することがある。

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

課題15 次の文を読み、問 29、問 30 に答えよ。

犬、トイ・プードル、雌、9 か月齢。3 か月前から右後肢をかばって歩き、最近顕著に痛がるとの主訴で来院。〔図 15〕は股関節の単純 X 線腹背像である。

別冊 D

図 15

問29 最も疑われる疾患はどれか。

1. 股関節形成不全
2. 大腿骨頭成長板骨折
3. レッグ・ペルテス病
4. 股関節脱臼
5. 坐骨神経麻痺

問30 本症例の治療として最も適当なのはどれか。

1. 三点骨盤骨切り術
2. 大腿骨頭骨頸切除術
3. トグルピン法
4. 無治療での経過観察
5. キルシュナーワイヤーによる固定

課題16 次の文を読み、問 31、問 32 に答えよ。

牛、ホルスタイン種、雌、4 歳齢。分娩 30 日後から発情は認められるが不規則な間隔で繰り返していた。〔図 16〕は分娩 70 日後の左右の卵巣の超音波検査像である。

別冊 D

図 16

問31 最も疑われる疾患はどれか。

1. 卵巣静止
2. 卵胞嚢腫
3. 黄体嚢腫
4. 黄体遺残
5. 嚢腫様黄体

問32 本疾患に関する記述として正しいのはどれか。

- a マメ科牧草の多給により発症する。
- b 直腸検査で診断する場合、複数回実施する必要がある。
- c 病変が片側の卵巣にのみ認められるのが特徴である。
- d 血中プロゲステロン濃度が 1 ng/ml 以上になる。
- e 治療には PGF_{2α} 製剤を投与する。

1. a, b
2. a, e
3. b, c
4. c, d
5. d, e

課題17 次の文を読み、問 33、問 34 に答えよ。

〔図 17 - A～C〕はある人獣共通感染症を媒介することから「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（感染症法）」で輸入が禁止されている動物である。

別冊 D 図 17 - A, B, C

問33 この感染症はどれか。

1. 重症急性呼吸器症候群（SARS）
2. 狂犬病
3. ラッサ熱
4. 中東呼吸器症候群（MERS）
5. 黄熱

問34 この感染症に関する記述として適切なのはどれか。

1. ヒトの予防接種証明書の有効期間は接種 10 日後から生涯有効である。
2. 野生動物用の経口ワクチンが実用化されている。
3. 感染動物の移動により世界的に流行した。
4. 隔離と検疫の徹底により流行が終息した。
5. 2003 年に終息宣言が環境省により出された。

課題18 次の文を読み、問 35、問 36 に答えよ。

犬、ラブラドル・レトリバー、避妊雌、10 歳齢。左の脇腹が腫れて痛がっているとの主訴で来院。〔図 18〕は胸部単純 X 線像（A：側方像、B：腹背像）、〔図 18 - C〕は病変部の造影 CT 横断像、〔図 18 - D〕は病変の細針吸引細胞診像（ライトギムザ染色、×400）である。

別冊 D 図 18 - A, B, C, D

問35 最も疑われる疾患はどれか。

1. 皮膚組織球症
2. 腎細胞癌
3. 筋間脂肪腫
4. 骨肉腫
5. 肺腺癌

問36 本症例の治療として最も適当なのはどれか。

1. 免疫抑制剤の投与
2. 胸壁切除
3. 肋間開胸術による肺葉切除
4. 腫瘍の辺縁部切除
5. 左腎臓摘出

課題19 次の文を読み、問 37、問 38 に答えよ。

犬、ミニチュア・ダックスフンド、避妊雌、4 歳齢。2 週間前から元気食欲がないとの主訴で来院。〔表 19 - A〕は血液検査結果、〔表 19 - B〕は骨髄細胞の百分比である。

別冊 D 表 19 - A, B

問37 最も疑われる疾患はどれか。

1. 慢性骨髄性白血病
2. 慢性リンパ性白血病
3. 急性骨髄性白血病
4. *Ehrlichia canis* 感染症
5. 赤芽球瘍

問38 本症例に対する治療薬として最も適当なのはどれか。

1. アスピリン
2. ドキソルビシン
3. プレドニゾロン
4. ドキシサイクリン
5. クロラムブシル

課題20 次の文を読み、問 39、問 40 に答えよ。

ある地域の乳牛における感染症 A の有病率を調査するため、無作為に抽出した 200 戸の酪農場でバルク乳を材料として感染症 A の抗体検査を実施した。〔表 20〕は農場が位置する場所（山間部または平野部）で分け、それぞれの抗体保有状況についてまとめたものである。

別冊 D 表 20

問39 有病率を調べる疫学研究手法はどれか。

1. 生態学的研究
2. 横断研究
3. 症例対照研究
4. コホート研究
5. 介入研究

問40 農場が山間部に位置することと抗体保有状況との関連の度合いを示す疫学指標と、その値の組合せはどれか。ただし、値は小数点以下第 3 位を四捨五入してある。

- | 指標 | 値 |
|--------------------|---|
| 1. オッズ比 ————— | 2.14 ($((60 \times 50) \div (70 \times 20))$) |
| 2. オッズ比 ————— | 1.62 ($((60 \div 130) \div (20 \div 70))$) |
| 3. 相対リスク（リスク比） ——— | 2.14 ($((60 \times 50) \div (70 \times 20))$) |
| 4. 相対リスク（リスク比） ——— | 1.62 ($((60 \div 130) \div (20 \div 70))$) |
| 5. 寄与リスク（リスク差） ——— | 0.18 ($((60 \div 130) - (20 \div 70))$) |

課題21 次の文を読み、問 41、問 42 に答えよ。

猫、雑種、避妊雌、13 歳齢。1 週間前から食欲が低下し、2 日前から何度も吐いているとの主訴で来院。〔図 21〕は肝臓の細針吸引細胞診像（ライトギムザ染色、×400）である。

別冊 D

図 21

問41 最も疑われる疾患はどれか。

1. 好中球性胆管炎
2. リンパ球性胆管炎
3. リンパ腫
4. 胆管癌
5. 肝リピドーシス

問42 本症例に対する治療として最も適当なのはどれか。

1. 肝葉切除
2. 免疫抑制剤の投与
3. 静脈点滴と経腸栄養
4. L-アスパラギナーゼの投与
5. 広域スペクトルの抗菌薬の投与

課題22 次の文を読み、問 43、問 44 に答えよ。

牛のある疾病の発症予防薬 A の評価を行うため、牛農場で臨床試験を実施した。試験では、発症リスクを有する動物 1,000 頭を A 薬投与群と A 薬非投与群に無作為に割り付け、2 年間追跡した。発症状況を比較した結果から〔表 22〕が得られ、A 薬が発症予防に有効であることが示された (p 値 < 0.01)。

別冊 D 表 22

問43 この試験に関する記述として適切なのはどれか。

- a 投与群と非投与群における疾病の発生割合は、それぞれ 2 % と 6 % である。
- b 観察研究に分類される。
- c A 薬の効果はオッズ比で評価する。
- d 生態学的錯誤に注意する必要がある。
- e インフォームドコンセントが必要である。

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

問44 投与群と非投与群の疾病の発生割合を検定するのに用いた統計手法はどれか。

- 1. t 検定
- 2. 相関分析
- 3. カイ二乗検定
- 4. 回帰分析
- 5. ROC 解析

課題23 次の文を読み、問 45、問 46 に答えよ。

牛、黒毛和種、雌、4 か月齢。臍部が腫れ、少量の排尿を頻回に行うとの主訴で往診した。体温 39.4℃、心拍数 132 回/min、呼吸数 44 回/min であった。〔図 23 - A〕は初診時の血液検査結果、〔図 23 - B〕は超音波プローブの走査部位とその検査像である。

別冊 D 図 23 - A, B

問45 最も疑われる疾患はどれか。

1. 卵巣炎
2. 糸球体腎炎
3. 臍静脈炎（膿瘍）
4. 尿膜管炎（膿瘍）
5. 臍ヘルニア

問46 本疾患の記述として適当なのはどれか。

1. 雄より雌での発生が多い。
2. 低アルブミン血症がみられる。
3. 病態の進行により肝膿瘍を併発する。
4. 脱出臓器を腹腔内に押し込み圧定することで治癒する。
5. 病変の位置によっては膀胱の一部とともに切除する。

課題24 次の文を読み、問 47、問 48 に答えよ。

犬、パピヨン、避妊雌、8 歳齢。元気も食欲もあるが、ここ数日お腹が膨らんできた気がするとの主訴で来院。超音波検査で腹水貯留が認められた。〔表 24 - A〕は血液検査結果、〔図 24 - B〕は腸管の超音波検査像である。

別冊 D 図表 24 - A, B

問47 本症例の腹水貯留の原因として最も適切なのはどれか。

1. 静水圧の上昇
2. 静水圧の低下
3. 血清膠質浸透圧の上昇
4. 血清膠質浸透圧の低下
5. 血管透過性の亢進

問48 本症例に対する治療として最も適切なのはどれか。

1. 低脂肪食の給与
2. フロセミドの投与
3. メトクロプラミドの投与
4. ラクツロースの投与
5. 腸管部分切除

課題25 次の文を読み、問 49、問 50 に答えよ。

犬、スコティッシュ・テリア、去勢雄、11 歳齢。2 週間前から元気と食欲が低下しているとの主訴で来院。身体検査では可視粘膜の蒼白が認められ、末梢血液のヘマトクリット値は 21 %であった。〔図 25〕は末梢血液塗抹標本の鏡検像（ライトギムザ染色、×1,000）である。

別冊 D

図 25

問49 最も疑われる疾患はどれか。

1. 原発性免疫介在性溶血性貧血
2. ハインツ小体性溶血性貧血
3. ビルビン酸キナーゼ欠損症
4. *Babesia gibsoni* 感染症
5. *Mycoplasma haemocanis* 感染症

問50 本症例に対する治療として最も適当なのはどれか。

1. 脾臓摘出
2. エンロフロキサシンの投与
3. アトバコンの投与
4. シクロスポリンの投与
5. イトラコナゾールの投与

課題26 次の文を読み、問 51、問 52 に答えよ。

牛、ホルスタイン種、雌、2 歳齢。放牧を始めてから 1 か月を経過した頃、左後肢の着地を嫌悪しているのを認めた。腫脹部位を触診すると圧痛を認めた。〔図 26 - A〕は左後肢の趾間、〔図 26 - B〕は同部位の正面の外貌、〔図 26 - C〕は病変部の単純 X 線背掌側像である。

別冊 D 図 26 - A, B, C

問51 最も疑われる疾患はどれか。

1. 趾皮膚炎
2. 蹄球びらん
3. 白帯病
4. 蹄底潰瘍
5. 感染性蹄関節炎

問52 本症例の治療法として適切でないのはどれか。

1. 非ステロイド系抗炎症薬の投与
2. 抗菌薬の投与
3. 断趾術
4. 骨プレートをを用いた内固定
5. 蹄ブロックの装着

課題27 次の文を読み、問 53、問 54 に答えよ。

〔図 27 - A〕はある感染症による豚の流産胎子である。本疾患の原因ウイルスが山羊あるいは猫に感染すると〔図 27 - B〕のような外貌を呈する。

別冊 D 図 27 - A, B

問53 最も疑われる疾患はどれか。

1. オーエスキー病
2. 豚パルボウイルス病
3. 豚繁殖・呼吸障害症候群
4. 豚熱
5. 日本脳炎

問54 本疾患に関する記述として適切なのはどれか。

1. 我が国では毎年発生報告がある。
2. ほとんどの子豚は不顕性感染である。
3. ウイルスが潜伏感染した個体が感染源となる。
4. 昆虫による機械的伝播がみられる。
5. 豚用のワクチンは使われていない。

課題28 次の文を読み、問 55、問 56 に答えよ。

養殖ブリの稚魚の体側筋に〔図 28 - A〕のような白色のシストが多数確認された。〔図 28 - B〕は患部の塗抹標本の鏡検像、〔図 28 - C〕は塗抹標本の Uvitex 2B 染色像である。

別冊 D 図 28 - A, B, C

問55 最も疑われる疾患はどれか。

1. 筋肉クドア症
2. ヘテラキシネ症
3. フィロメトロイデス症
4. ヘテロスポリス症
5. ミクロスポリジウム症

問56 本疾患に関する記述として正しいのはどれか。

- a 原因は粘液胞子虫である。
- b 病魚の体表に凹凸ができる。
- c 自然治癒する場合がある。
- d 虫卵が生簀の網に固着する。
- e ワクチンで予防できる。

1. a, b
2. a, e
3. b, c
4. c, d
5. d, e

課題29 次の文を読み、問 57、問 58 に答えよ。

犬、アメリカン・コッカー・スパニエル、雄、7 歳齢。半年前から抜け毛が目立ち、乳頭が発達してきたとの主訴で来院。超音波検査で腹腔内に腫瘤を発見した。〔図 29 - A〕は症例の外貌、〔図 29 - B〕は腫瘤摘出時の肉眼像、〔図 29 - C〕は病理組織像（HE 染色）である。

別冊 D 図 29 - A, B, C

問57 本症例において外貌の変化を引き起こしている原因物質はどれか。

1. コルチゾール
2. テストステロン
3. オキシトシン
4. エストロジェン
5. プロジェステロン

問58 無治療で経過した場合に生じうる異常として適切なのはどれか。

1. 貧血
2. 低血糖
3. 高血圧
4. 末梢神経障害
5. 多飲多尿

課題30 次の文を読み、問 59、問 60 に答えよ。

犬、シー・ズー、避妊雌、3 歳齢。2 か月前の避妊手術後より震えや食欲不振がみられるとの主訴で来院。〔図 30 - A〕は腹部単純 X 線側方像、〔図 30 - B〕は病変部の超音波検査像である。

別冊 D 図 30 - A, B, C

問59 脾臓背側の病変の超音波所見として適切なものはどれか。

1. 脾臓内の液体貯留がみられる。
2. 実質内の出血を認める。
3. 実質性の塊状病変を認める。
4. 音響陰影を伴う構造物を認める。
5. 拡張した胆嚢を認める。

問60 本症例の臨床徴候の原因と考えられる〔図 30 - C〕の病変を切除した。本症例の病態として適切なものはどれか。

1. 避妊手術に用いたガーゼに対する炎症反応
2. 脾臓の結節性過形成からの出血
3. 脾臓原発の腫瘍
4. 胆嚢炎に伴う脾臓の炎症
5. 脾臓に発生した嚢胞

